

## あとがき

本書は、「ニコラ・テスラの遺産」と題した本です。これは、近年我が国でも関心を持たれつつあるニコラ・テスラの真実を再び問い直す作品です。また、本格的な理論物理学者の目や立場からニコラ・テスラおよびそれに付随した物理工学的な業績を根本から見直したものです。物理学の発展史まで反省しながら、我々の物理学理論のどこに問題があるかまで調べ尽くしています。ニコラ・テスラの業績はその後多くの工学者や科学者に強い影響を与えました。その中には、反重力の研究、空飛ぶ円盤や UFO の問題、宇宙人の問題も絡みます。さらに、本書では、我々日本人のルーツである縄文人と西洋白人種のルーツであるアーリア人について詳細に分析しています。そして、最後は我が国の現状を分析し直しています。我が国を再生させるために何を行えばよいかを提案しています。

本書の起りは、2021年2月の上旬に竹内哲子さんから電話を頂いたことが始まりです。彼女の夫は武内宿禰すくねこと竹内睦泰むつひろ氏です。彼は私と2019年に対談講演会を行いました。しかし、残念ながら彼はその翌年の2020年1月13日に奇しくも早世されてしまったのです。そんな事情で、私は妻の哲子さんのことはよく

知っていました。

その彼女から、青林堂書店の渡辺れい子氏に私の電話を教えてくださいかという電話を頂いたのです。私は一応話は聞いても良いとメールをしました。2月10日に青林堂書店の渡辺れい子氏より電話をいただきました。彼女の目的は本の執筆依頼でした。それが、『ニコラ・テスラの本で、テーマは「陰謀論から技術革新・精神革命へ」を書いて欲しいというものでした。そして、中身にはぜひ以下のテーマを書いてくれというお願いがありました。

- ・ニコラ・テスラの技術が現代に蘇る
- ・真実を隠すための陰謀論
- ・未来技術の解説・メドベット等

それ以外に私が書きたいことがあればぜひ書いてくれ、ということでした。その後、追加で、

- ・日本列島修復論

も書いてくれという話が来ました。

これは面白そうだということで、私はOKしました。そして、テーマが大テーマだったのです。これはかなり構想を練らないとできそうもありません。それでまずは2月中はのんびり構想を練る。それから3月に入って本格的に取り掛かろうと思いました。

私はニコラ・テスラに関する大半の本を持っています。UFO・宇宙人の本についてもそうです。これらは普通に市販されているものです。また、私はそれらをほとんどに目を通してきています。だから、私はこれまでにニコラ・テスラ関係およびUFO・宇宙人関連についてどんな本があるのか知っています。

それで、最低限の目標として、 $N + 1$ の1にならない本にしようと思いました。つまり、今までの本と似たような本だけは書かな

いでおこうと決めたのです。とにかく、どこにもないオリジナルの本を作り出そう。私は、それだけは絶対に実現しよう、そう決めたのです。

3月から執筆し始めました。キャンディーズを聴きながら海ではじめました。中林海岸の海へ行ったのです。そこでキャンディーズを聴きながら、書き始めました。これまで構想通りに保江邦夫先生の「神の物理学」のような格調高い名文を目指しました。かなり専門的な物理学的な UFO の本にしようというのが私の目標です。

第一章からはじめます。私はウキウキしながらキャンディーズの曲のリズムに乗って書き出したのです。すると、突然まったく別のものが頭によぎりました。これまでの物理の本にしようという構想がどこかへすっ飛んだのです。書くつもりがなかったネットの AI のカラー化のことを思い出したのです。それで、これを本の最初の導入にすることにしました。すると、今度は100年後の未来図が頭をよぎりました。それを描くことにしました。そうしていくと、あっという間に1章の大半が出来ました。そして、だんだん調子が出てきてきました。

ちょっと長時間パソコンに向かって執筆していたときでした。3月10日水曜日のことでした。どうも文字の見え方が変わった見え方になったのです。ちょうど両目のそれぞれの右側だけに大きな丸のような見えない領域がくっつきり出たのです。

それで、私はこれは脳梗塞だと感じました。私は目の右側と左側は脳の左脳と右脳にそれぞれ直結していることを知っていたからです。それで私は大量に水を飲みました。そうすると、その症状は徐々に消えました。

翌日3月11日木曜日は何も異変がないので、普通に過ごしまし

た。ジョギングもいつもどおりにしました。これでまた目に異変が来たら病院行きかもな程度の認識でした。キャンディーズを聞きながら本書の原稿を書いて過ごしました。

その後、思い出してみたのです。すると、その数日前にも、似たようなことがあったことに気づきました。たぶん3日前です。その日に、私の両目の視野の一部にチカチカして徐々に拡大することがありました。あとでネットで医学情報を調べてみたのです。やはりこれも脳梗塞の典型的な症状でした。これは閃輝暗点<sup>せんき</sup>というものです。だから、もし今度似たような事が起きるようなら本当に病院へ行こうと思っていました。

翌日3月12日金曜日は見た目は普通だったのです。何も起こらなければ問題ない。私はそう思っていました。私はいつもどおりに昼食を作っていました。すると私の右足の下肢だけ突然カクンという感じ麻痺してきました。私は屈伸しました。しかし、なにか変な感じでした。私はこれは普通ではないなと思いました。

昔、私は母から、私の父が54歳のとき脳梗塞になったことを聞いていたのです。1981年の真夏に父が群馬へ出張中の昼間のドライブ時のことです。父が休憩で車から降りたときに右足に異変を感じたのです。父は同じように右足がカクンとなりました。その直後に脳梗塞になったのです。

幸い父の場合は同乗の人が地元の仕事の取引先の人でした。その日はたまたまその人が運転していたのです。父は助手席にいました。だから、運転中の大事故にはならずすみしました。また、その人は自分自身が脳梗塞を恐れて病院の事情や脳梗塞をよく知っている人でした。それで、幸いすぐに地元の専門の病院に連れて行ってもらえました。それで父はなんとか一命をとりとめました。父は1

週間ほど経過観察で入院し、その後家に戻りました。母の話では、右半身不随の状態です。

それからの1年間は自宅に寝たきりのリハビリ。父は日々相当努力して、やっと1年後に幸い歩けるようになりました。しかし、杖を付き、右半身は不自由で仕事への復帰は不可能でした。1年間の再発の危機がありました。それで母は仕事の代役になることが不可能になりました。私は理論物理学者への道の途中です。父はそれを続けて良いと言ってくれたのです。最後まで全うしろ、これが父の教えです。次男、三男はまだ少年のようなものです。そこで、泣く泣く我が家の家業である宝石加工業はそれで廃業になりました。そういう事情を私は聞き知っていました。

それで、私の場合も父同様の遺伝があります。だから、間違いなく私の場合も脳梗塞だろうと思いました。それで私は大量に水を飲みました。

とにかくその日は体中が緊張している感じがしました。これまで一度も感じたことのない変な感じでした。それで、静かに歩き、食事はとらず、血圧を測定してみました。すると、私の血圧が200をゆうに超えたのです。これは高血圧の状況だとわかりました。普通なら天井が回って見えるとか、そういう異常な症状が出ると聞き知っていました。しかし、私の場合にはそういうことがなく、頭痛もないのです。ただ体中はピンピンに緊張した状態だったのです。例えて言えば、割れる寸前まで膨張した風船という感じでしょうか。そこで、その日はとにかくのんびりしました。私は血圧が200以下になることだけに集中しました。とにかくこの日はゆっくり過ごしました。ほとんど横になって天井を睨んでいました。

翌日の3月13日土曜日に小松島の日赤病院へ行きました。徳島

の南部ではここだけが緊急病院の大病院です。ここは比較的近くで大型の装置が揃った脳外科の有名な病院だったのです。

そこへ行くと、他にも患者がいましたが、15分待ちくらいですぐに診てくれました。幸いその日は脳の患者は私以外にいなかったのです。最初に血圧検査で始まりました。血圧だけが圧倒的な高血圧でした。若い女性医師が目をチェックして、それから脳の異常を推定する検査を行いました。すぐに心電図とMRIと血液検査を行いました。結果は帰る前に出ました。すべて正常の範囲内でした。脳も血管に一部細くなった場所もありますが、正常範囲内ということでした。血管が細くなったところは、やはり左脳の後ろの血管に見えます。とにかく血圧以外何も問題がなかったのです。脳のMRI写真は「私はこんなにきれいな脳を見たのは初めてだ。たいていどこかに問題がある」と女医さんから褒められてしまいました。

それで、1週間はバイアスピリンと胃薬を飲みながら、再発防止。そして一週間後に今度は心臓血管エコーと首の血管エコーをとること、および、24時間装着の心電図検査器の装着になりました。エコーは正常の範囲内で問題なしでした。またバイアスピリンと胃薬で1週間の再発防止。そして、心電図の結果をもらうことになりました。その間はただ横になってゆっくりしていました。

この間に私はいろいろ血圧の実験をしてみたのです。最初は絶食にして血圧がどこまで下がるかやりました。それから、いつも食べるものを1つずつ食べては左右の血圧の測定。私はただデータを集めました。他に私がやれることがなにもないのです。そうやって重曹、ワカメ、夏みかん、小豆、納豆、米、肉、ソーセージ、おはぎ、などいろいろ実験しました。量も色々変えたりしてやりました。そ

して、いくつか私の血圧がどうして上がったのかの理解ができました。

結果的には、私の場合は非常にレアケースだったと思います。私はこれまでの10数年健康のために重曹水を飲んでいました。特に、週20km～30kmのジョギングの前に清涼飲料水のように飲んでいました。コップ1杯に1g～2g程度を入れて溶かして飲んでいました。これが血圧を慢性的高血圧の状態にしたようです。

今回調べると重曹 ( $\text{NaHCO}_3$ ) にはナトリウムが付いていたのです。私は重曹という日本名に騙されていました。重曹のNaの量は、食塩1gに対して重曹1gは食塩0.7g相当だったのです。これから運動するという直前に高濃度の食塩水を飲んでいたようなものです。

私はこれを10数年やっていたため、慢性的な高血圧になっていたのです。週20kmのジョギングも行っていました。その結果、心臓に負担が来ました。特に左心房を肥大させたようです。左心房の肥大は血栓を作る原因です。その超高血圧の状態、今回執筆開始時に10数時間パソコンに熱中したのです。その結果、エコノミー症候群になり、血栓が脳へ飛び、異変が生じたということです。

こうして、この1ヶ月間は再発防止だけに務めました。私は適度にウォーキングをしました。ジョギングは止めにしました。とにかく血流を良くし、血圧を下げる努力をしました。食事の量を非常に減らしました。特に米をほとんどとらないようにしました。なぜなら米を食べると一時的にもものすごく血圧が上昇したからです。食事後に眠くなる時、血圧が非常に高い状態だと分かったのです。

200以上の高血圧の時は脈拍数が起きていても47～49にまで下がっていました。私はスポーツ心臓です。起きている時は6

0以上になりますが、睡眠時は49程度に下がります。しかし今回は起きていても40台でした。いろいろ調べた結果、180になると、50。170になると、52。160になると、55。150になると、57。140になると、59。130の正常範囲になると、60オーバーということがわかりました。

この間私は特に何もできない。ですから、毎日キャンディーズを聞いていました。これは昨年暮れから偶然 YouTube で昔のキャンディーズの歌を見たことがきっかけです。ですが、これが唯一元気を与えてくれました。

そして4月に入りました。血圧も正常になってかなり回復しました。3月の後半に比較的元に戻りました。それで、調子の良い時は忘れない内にと1章の続きを仕上げているのです。それで、すでに1章はだいたいできていました。4月から第2章を書き始めました。運動もしない。家でのおんびり過ごす。そうしながらの執筆に切り替えました。運動は血流を良くするように夕方散歩する程度。だから、順調に執筆は進んだのです。4月の最後には第5章まで行き着きました。

そして、最終の5月に入りました。締切は5月31日です。当初の計画では、15章にしました。最後が「新型コロナの真実」という章でした。あと10章を一週間に2章のペースで仕上げればなんとか間に合うかなと思っていました。

5月になってからは平均日に15時間ほど、30分～1時間に一度は立って運動したり歩く。そういう感じで、私は執筆を続けました。こうして、上旬に第6章、第7章。中旬に第8章、第9章、第10章。下旬に第11章、第12章。そして最後の数日で第13章と第14章と第15章。こうやって執筆を行って行きました。

最終日の5月31日は「日本列島修復論」の第14章でちょっと時間がかかりすぎました。それで、残念ながら、最後の第15章まではついに至りませんでした。この段階では、あとがきでこうして謝るしかないなと思っていました。

本の完成間近になると、私に妙な気分が浮かびました。もうこの本を執筆できないのか。もう終わりなのか。どこかサッカー選手権で負けて会場を去る高校サッカー選手のような気持ちです。本当に名残惜しい感じがしました。

こうして、曲がりなりにも本の執筆は5月31日の午後8時30分には終わりました。本書は無事に5月31日に完成しました。これを約束どおりにその日の内に出版社へメールで送りました。

本書は4ヶ月の長い旅路を経て出来上がりました。いま思えば、本当に完成して良かったと思います。

しかしながら、青林堂からは2日後に900ページは長すぎるから書籍化は不可能という返事が来たのです。それで、出版社は、一部のみ書籍化で出したい。他は売れ行きの様子を見て電子書籍として出したいと条件を変えました。青林堂は後になってゴールポストを移動してきました。出版社は意識的にこういうことをよくやります。つまり、こちらの足元を見てきたわけです。私は分割出版は想定していました。だから、特に驚くことはありません。しかし、そのやり方が姑息です。ですから、私は一切の関係をシャットアウトすることにしました。というわけで、今回の書籍出版の件はNGということに決定しました。それで、pdfで配信することにしました。

最後に、謝辞を述べたいと思います。今回の執筆に入る前に、数人の知人、東京白金の保江邦夫博士、名古屋の玉川浩久博士、静岡

沼津の岩田耕一さん、新潟の三星孝輝さん、神戸の福田鋭士さんにニコラ・テスラのどんなことを知りたいかを問い合わせました。それを本の構想の参考資料にしようと思ったのです。私はすぐに彼らからたくさんの質問の山をいただきました。彼らが知りたいことは他の人も知りたいことに違いありません。本書の専門的な内容およびQ&Aの章は彼らへの答えです。これら5人の紳士諸君に心より感謝いたします。

キャンディーズの3人には心からの敬意と感謝をしたいと思います。キャンディーズは今は存在していません。だから実在の存在ではありません。私がいうキャンディーズは女子3人のコーラスグループとMMPの伝説のキャンディーズです。1972年にNHKで結成、1973年9月1日にメジャーデビュー、1977年7月17日に突然の解散宣言、1978年4月4日に解散した。あのキャンディーズです。あなた方の1973年9月1日から1978年4月4日までの4年半の頑張りがなければ、この本はなかったでしょう。また、キャンディーズの昔の映像をYouTubeへ編集しアップしてくださった方々にも心からの感謝をいたします。

ところで、私は昨年暮れから偶然キャンディーズの虜になったのです。この際ですから、この事情も書いておきたいと思います。

私は特にミキさんこと藤村美樹さんになにか不思議な懐かしさを感じ始めたのです。

それで、いろいろキャンディーズを調べました。それをその都度私のブログにメモしました。そして、調べれば調べるほど、妙な懐かしさがこみ上げました。この原因はいまもまったくわかりません。しかし、調べていくと、その原因らしきものがみつかったのです。

私の現在の妻がずっと昔から本当によく当たるといっていた星占いがあります。それは生年月日で占う相性占いです。昔のある有名な女性星占い師が作ったものでした。

昔、それで妻が私と妻の相性占いをしたのです。その時の私のルナと妻のルナの組み合わせがあります。その結果、自分たちの相性が最高だということだったのです。我々は他のどんな組み合わせより最高の相性でした。

事実、私と妻は実に相性がいいのです。すべてが裏腹の関係で、互いに補う形の相性なのです。

例えば、私と妻はともにアンパンもチーズパンも好きです。しかし、私はアンパンの内側のアンが好き、逆に妻はその外側のパンが好き。チーズパンの場合、私はチーズのない場所が好き、妻はチーズが好きなのです。このように好みは同じ方向でも取り合う場所が重ならないのです。両手を合わせた場合、手を洗う場合のように両手を重ねるのではない。両手の指と指を互いに違いに差し込んだような状態に近いのです。

そんな妻に、私が、なんか最近キャンディーズのミキさんに妙な懐かしさを感じるんだよな、と言ったのです。すると、妻が私とミキさんの相性を占いました。なんと、妻と私のルナの組み合わせと、ミキさんと私のルナの組み合わせとが全く同一だったのです。これはいまだかつてこのパターンは、私と妻以外のだれもいませんでした。テレビの俳優の組み合わせもそういうケースはありませんでした。これまでそういう人はだれもいなかったのです。

なのに、私とミキさんは私と妻と全く同じ。だから、私は彼女に会ったこともないし、住む世界も全く違うのだけど、きっと話が合うのだろうと思っていました。ミキさんとは相性が良いから、きっ

と気が合いそうだなと思ったわけです。それで、なんとなくその理由が分かったような気がしたのです。

それ以来、私のブログに昔のキャンディーズの事情をいろいろ調べてはまとめてメモする習慣ができました。そこで、キャンディーズの曲を聴くために YouTube を見る習慣がついてしまったのです。

すると、そんな YouTube の中に、とある熱烈なミキさんのファンが、ミキさんの誕生日を祝うものがあったのです。それにミキさんの結婚時の写真を出ていました。当然、普通の人はそのような写真の存在を知りません。私もまったく始めて見たものでした。

それを見たら、私は本当に驚きました。その顔は若い時の私の妻の顔そのものだったのです。私は現在の妻とアメリカのユタ大学に留学中の1988年8月にソルトレークのユタ大キャンパスで出会いました。その時の33年前の妻の顔そのものだったです。確認のために、昔の写真を見直しましたが、そっくりでした。そして、妻にそのミキさんの写真を見てもらいました。妻は即座に「あたしの写真だ」「自分の昔の顔」と言いました。

私の妻とミキさんは若い頃の顔も瓜二つ、ルナもいっしょ。そういう奇妙な関係だったのです。だから、私の潜在意識に妙な懐かしさが湧いたに違いありません。それで、昨年暮れから妙な懐かしさをキャンディーズに感じたようです。いわば、私の妻はミキさんの分魂のようなものだったのです。

仮にその占いを信じたとしましょう。私自身はミキさんと妻と最高の相性で生まれてきたようです。私は1957年昭和32年10月13日山梨生まれ。ミキさんは1956年昭和31年1月15日福島生まれ。私の妻は1962年昭和37年9月10日徳島生

まれ。

そうすると、私とミキさんと妻の関係には非常に興味深い物語が誕生するのです。私には、私が未来に出会えば結婚できそうな2人の最高の相性の女性が生まれていた。その2人共に顔貌がそっくり。性格や個性も似ている。相性も最高。2人共に短距離走が得意。基本的には2人ともに左利き。

しかし、私はまだどちらの存在も知らない。私はまだどちらに会ってもいないのです。

この状況で、私とその2人のどちらの方に出会う確率が高いでしょうか？

私がミキさんより1つ年下の男の子。実際、私はキャンディーズが「年下の男の子」で歌ったようなまさにそのものの男の子だったので。ハンカチはいつもくちやくちやく丸めてポケットに入れて歩いていました。私はわがままな腕白小僧でした。一方、妻は私より5歳年下の女の子。

1人は福島に生まれ、東京に住んでいる。もう1人は、四国の徳島の田舎の阿南に住んでいる。

1人は日本のバリトン歌手のレジェンドの父の家に生まれた。もう1人は、元NHK技師で、阿南のニコラ・テスラのような電気工学技師の父の家に生まれた。

1人はカソリックの高校出身のカソリックのクリスチャン。もう1人は南無阿弥陀仏の仏教徒。

1人は私とほぼ同年代の1つ年上の東京の中高生の女子。もう1人はまだ小学生の女の子。

1人は母が声楽とピアノの先生。その母親からピアノや音楽の手ほどきを受けている。バリトン歌手の父から声楽の手ほどきを受け

ている。もう1人は、父譲りの機械いじりや発明が好きな女の子。剣道や水泳をやっている。

一方、私は東京の隣の県に住んでいる。私は野球やサッカーをやっているスポーツ少年。私は何度も東京へ行ったことがある。私の父の弟は東京駒込に店を持って住んでいる。

私の叔母は山梨のカソリックのミッション系女子校の音楽と英語の先生。しかも、叔母はカソリックのクリスチャン。私はその叔母から幼少期に英語とピアノの手ほどきを受けている。私は幼稚園時代にその影響で、オルガンを習っていた。

私は小学校の時に合唱団に入れられた。私の中学時代の音楽の先生は声楽出身のバリトン歌手。私はその先生から私のバリトンの声に目をつけられた。中学では、その先生からクラス対抗合唱コンクールの指揮者を命じられた。

我が家系では、だれも関西や四国へ行ったことがない。せいぜい父が高知へ行ったことがあった程度。

地理的には山梨と福島の方が山梨と徳島よりずっと近い。事実、私は関東に住み、大学時代は千葉の野田にいた。何度も東京神田の古本店街へ行ってる。私は大学時代まで関東から一度も出たことはなかった。東京は帰省の途中経路で、新宿は必ず通過していた。

妻はまだ子供で、四国の徳島阿南に住んでいた。妻はまだ四国から一度も出たことがない。

この段階では、我々が出会うチャンスはどちらに分があったのでしょうか？ 誰が考えても、物理的には、空間的にも、時間的にも、私とミキさんの方に分があったはずです。誰が見てもそう結論するでしょう。だれが考えても、この段階では、私がミキさんと出会う確率の方が、私が妻と出会う確率より高かったのです。

しかし、そんなことは当時の若い私たちは知るよしもありませんでした。

ミキさんは東京音楽学院に入った。そして、ミキさんは普通の女の子を止めて芸能界に入ってしまった。だから、最初から私はミキさんと出会う世界線にはなかったのでしょう。

彼女は1978年の4月4日に芸能界を止め、普通の女の子に戻りました。一方、私はその頃はすでに大学院へ入ることだけを考えていたのです。そして、2年後に大阪へ行ってしまうのです。

これで私と妻の出会いの方が分が増した。私とミキさんの出会いの方の分が下がった。そして、その2年後に私が大阪大学の大学院にいる間に、ミキさんは結婚相手を見つけてしまう。

さらにそれから、私は1986年にアメリカのユタ大へ留学してしまう。しかし、1988年にミキさんはハワイで結婚式を上げるのです。ちょうどその時、私はユタ大学でミキさんそっくりの人間と出会ったのです。それが現在の私の妻でした。まさにミキさんの代わりになるような別の女性と出会うことになったのです。

その後、ミキさんの結婚式のYouTube 動画を見る機会があったのです。それを見てかなり驚きました。結婚相手の新郎の顔が、意外に私に似ていたからです。彼もまた私同様に切れ長の一重でした。

私の妻ははっきり二重が嫌いなのです。妻は自分が二重なので、キリッとした昔の古武士のような透明感のある一重が好きなのです。ひょっとしたら、はっきり二重のミキさんも同じなのかもしれません。だから、もしかしたら、そのご主人は私に似ているのかもしれない。そして、そのご主人もまた私の妻と気が合うのかもしれない。

なんと不思議な縁なのでしょう？

だから、私は個人的には、ミキさんは一度も見たことも会ったこともない人です。私のまったく知らない人にすぎません。だけれども、きっとミキさんという人は私の妻のような人だろうと私は感じるわけです。

まあ、一種の妄想かもしれません。一種のストーカー心理なのかもしれません。しかし、なぜかそういう奇妙な懐かしさだったのです。

後で、あの1977年7月17日の突然の解散宣言の日を調べました。

あの日、私は何をしていたのでしょうか？

キャンディーズのあのコンサートは日本社会の若者たちにとつてもない衝撃を与えました。なのに、どうしてあれほど衝撃を与えたことが、若かった私の記憶にまったくなかったのでしょうか？

実は、あの日の2日後に「科学と私」というセミナー合宿の予定になっていたのです。1977年7月19日から21日までセミナー合宿だったのです。それが東京理科大学のセミナーハウスの誕生を記念して行われる大学最大のイベントだったのです。

このセミナー合宿の目玉が、ノーベル物理学賞の朝永振一郎博士でした。彼が我が大学へ初めて来てセミナーで講演をするのです。そういう予定が組まれていました。だから、どんな話をしてくれるのか？ それで、当時の理科大理工の物理学科の学生たちはそれにとびきりの状態だったのです。つまり、キャンディーズと朝永振一郎博士の両方のイベントがほぼ重なっていたのです。

ところで、私は高校3年生の時、山梨県の高校サッカー選手のベスト11に選出されていました。そのおかげで、早稲田大学からい

までいうサッカー推薦を受けていました。サッカーで行くのであれば、早稲田の教育学部でサッカー部に入りながらサッカーを続け、後に体育教員になる道がありました。それ以外に普通に学科試験を受けて合格し、理系の学部に入り、物理学者になるという道もありました。当時高3の時、物理学科のある大学の理学部へ進学し物理学者の道へ行くか、早稲田大学のサッカー部へ入ってサッカーを続けるか、本当に悩みました。

私は中学生の頃から野球やサッカーをしていました。しかし、同時にアインシュタインの相対性理論に関心がありました。私は趣味でブルーバックスの本を中学で持ち歩いていろいろ読んでいました。わからないながら読んでいたのです。

五島光学の8cm屈折天体望遠鏡も中1のときから持っていました。これは当時の小中高の理科室のものより優れたものでした。顕微鏡も高校の理科室にあるものより優れたものを持っていました。

天体観測は小中高とずっと行っていました。高校時代には月や流星群の星夜写真を撮影していました。押し入れにその写真を現像する投影機や白黒現像の赤い電球のある暗室も持っていました。現像セットは一式そろえていたのです。だから、本気で物理学者になりたいとも思っていたのです。

大学は、確か、中央大学理工、理科大理、早稲田大学理工、理科大学理工、東京工業大学の順に受けました。すべて物理学科のある大学だけを受けました。第一志望は東京工業大学でした。早稲田理工へ行けばサッカー部に入れると思っていました。

東工大と早稲田と理大理は問題の分量に圧倒されて、時間内に解くことが出来ませんでした。大半が手つかずで残りました。私は公式は覚えず、問題ごとに必要なら、先に公式を試験用紙の裏で導い

ておき、それを使う。知らない問題でもその場で問題の意味を理解して解くというやり方でした。いま思えば、とても時間のかかるやり方だったのです。

結局、中央大学理工と理科大学理工に受かりました。当時、サッカーでは、中央大は No.1 の早稲田の次の No. 2 でした。

ずっと後にここ阿南に来て知ったことです。当時の早稲田大サッカー部には、ディフェンダーの岡田武史氏がいました。彼は1浪のため私と同学年だったようです。彼は、いまやレジェンド監督になっています。4年にはセンターフォワードの西野朗氏がいました。彼ははすでに1年生時代から日本代表でした。ハンサムルッキングで女性の人気者でした。その世代にはディフェンダーの加藤久選手がいました。早稲田の黄金期だったのです。だから、私がナンバー2の中央大へ行けば、まだサッカーへ戻ることは可能でした。

一応浪人も考えました。それで駿台予備校の東大理 III コースという試験を受けてみました。ここも問題は難しくはないのですが、問題の量が多く、半分に到達できませんでした。私の頭の回転スピードではかなわなかったのです。受ければ浪人してもいいと思いました。しかし、その時に東大は自分に向いていないと直感的に思いました。それで、結局、たいした部活のない理科大理工の物理学科を私は選択したのです。これは「もう俺はサッカーを止めるんだ」と自分自身に思わせるための選択だったのです。

入学すると、理大理工にもサッカー部がありました。理工学部のある東部野田線の運河駅近辺には何もなかったのです。それで、他にすることもなかったのです。だから、大半の学生はパチンコや麻雀で暇つぶししていました。我々サッカー部も試験がなければ、練習後にだれかの部屋へ行って麻雀して徹夜する。翌日の授業はサボ

る。そんな生活をしていました。

そんなふうに、私は最初の2年はサッカー部に所属し、まだサッカーをそれなりに続けていました。1年ですぐにエースになり活躍していました。だから、まだその頃、高校までのサッカー選手の道へ戻るか、戻るならまだ遅くない。そうも考えていたのです。

私の家系は代々甲府の宝石加工業です。だれも学者になったものはいませんでした。大学へ行ったものもいませんでした。そんな家系の兄弟姉妹の最初の子供の最初が私でした。だから、私の前に大学に行ったものは誰もいませんでした。私が最初の大学進学者だと思っていたのです。

ところで、昨年4月5日に、私の父がなくなりました。翌日の葬式で久しぶりに私は叔母に会いました。その叔母が、山梨大学教育学部出身者だったのです。面白いことに、叔母は最近イベルメクチンでノーベル生理医学賞をもらった大村智博士の旧友だったのです。教養時代一緒に勉強したと言っていました。この叔母は、山梨英和学院の看板の英語と音楽の先生になりました。この学校はカナダのカソリックのミッション系です。だから、叔母はカソリックのクリスチャンです。ちなみに、私は仏教徒です。曹洞宗。しかしながら、これは当時の私の知らない話だったのです。

そんなわけで、本当に自分が物理学者になれるかどうか、当時は理科大に進学は出来たものの確信が持てなかったのです。それで、私は、せつかく朝永振一郎先生が講演に来られる。だったら、ぜひ一度「サッカー選手が理論物理学者になれるかどうか」先生に聞こうと思ったのです。だから、絶対にそのセミナーに参加するつもりだったのです。

だから、キャンディーズのコンサートは知っていたのかもしれない

せんが、全く気にもしなかった。当然、私は、キャンディーズの突然の解散宣言のことなど知る由もありません。

私はそれをどこで知ったのでしょうか？

おそらく、私はそのセミナーハウスの食堂のテレビか何かでニュースで聞いたのだらうと思います。

とにかく、当時の私はキャンディーズどころではなかったのです。もし朝永先生から、「それは難しいよ」と言われたら、私はサッカーへ戻ろうと考えていたのです。当時は、正月に帰省する度に、高校時代の監督から甲府クラブに入れと言われていたからです。

高校時代の平林監督は甲府クラブの現役選手兼コーチで、当時の1級審判員の免許を持っていました。中学時代の岩田利男監督は、甲府クラブの創設者で初代監督でした。彼は私の父の旧制甲府中学時代の5年後輩でした。よく知っていたのです。戦時中にすごく父から助けてもらったと言っていました。それで今度は私が先生から非常に丁寧にサッカーを指導していただくことが出来たのです。

元々私は幼少期から野球をして育ってきました。我々の時代の遊びは野原や田んぼの草野球でした。町内会のソフトボール大会があり、私は参加枠最年少の小3からレギュラーでした。小学校では高学年でやっと部活に入れました。私は小5小6で野球部でした。サッカーも好きである程度上手でした。しかし、当時は甲府市の小学校にサッカー部というものはありませんでした。サッカーは学校の冬の体育で行う種目だったのです。

それで中1には中学の野球部に入りました。その時の同級生はその小学校時代の県大会優勝チームでした。彼らがそっくり入ってきたのです。だから中1時代に期待していました。

しかし、監督が練習を見に来ないのです。先輩はろくな選手がい

ませんでした。それが原因でろくな練習ができませんでした。

中2になって野球部に問題が起きました。我々が2年生になった時、私はこの2年生チームの主将でした。監督から抜擢されました。私は野球もうまく一番成績が良かったのです。

我々は新人戦の市内の地区予選に出たのです。我チームは小学校の県大会優勝チームでした。その時の最優秀選手だったピッチャーのいる中学チームです。それが初戦の1回戦でいいところなく負けてしまったのです。はっきり言って練習不足でした。

選手たちの落胆はものすごかったのです。我々のチームのエースの女房役のキャッチャーが、「井口、俺もう辞める」と言って野球部を辞めました。こういう具合で見込みのある選手たちがごっそり止めました。我チームは県大会の優勝メンバーだった選手たちです。私はどうすることもできず、毎日家で不満をぶつけていました。一人でグラウンドで素振りしている日々でした。そして、夏休みが来ました。

夏休みを終わって戻ってみれば、残った選手たちは部室にたむろしてタバコを吸う、夜遊びはする。まったく不良チームになっていました。そういうチームに変わってしまったのです。それで、私は中2の秋に、思い悩みに悩みました。それで私はついにサッカー部へ転向したのです。

その時に岩田先生が一からサッカーの手ほどきをしてくださいました。最初は転び方、受け身からでした。

岩田先生は日体大サッカー部出身で、戦前の日本代表のメンバーでした。日本がまだW杯どころか、五輪すら夢のまた夢の時代のフォワードの選手でした。だから、常に日本で国際親善マッチがあるときには、先生に東京の国立競技場への招待切符が送られてき

ていました。国立競技場には先生のための座席がありました。その場所は、向こう正面の中央真ん中あたりでした。私は、一度高3の時、日本代表とバイエルン・ミュンヘンの試合の時の切符を頂いたことがあったのです。少年が1人ポツンと向こう側に正面ど真ん中に座って見ていたのです。その長方形の招待席の一带には私しかいませんでした。その外は満員でした。

岩田先生は当時市内の中学校のサッカー部界のボスでした。その先生から基本技術を叩き込まれたのです。ドルブル、リフティング、パス、ヘディング。夏休み中の合宿は非常にきつかった。私はリフティングをとにかく500回突破できるように努力しました。サッカー雑誌を買ってペレのプレーを分解写真を真似して会得しました。私はすぐに他の選手たちに追いつきました。こうして3年には、私は、ある選手の怪我の代役をきっかけに、すぐにレギュラーになることができました。

この夏休み打倒蕪崎ということで、県内の中学校のサッカー部の優秀選手が集まる夏合宿が石和中でありました。私はそれに飛び入りで参加しろと先生に言われて参加させてもらったのです。これは真夏の非常にきつい合宿でした。そこで、私のサッカー部の技術は遜色ないと確信したのです。むしろ、技術的な面では私が勝っていたのです。それが大変な自信を生みました。また合宿に参加した他校の優秀選手たちとの友情が生まれました。

我々のチームは3年次は県内の大きな大会5つのうち3つで優勝しました。うち春の関東大会と秋の全国大会のときだけ負けたのです。それらは引き分けPK戦と引き分け抽選負けで敗退でした。最初は蕪崎東、後は蕪崎西に負けました。それ以外は我々は一度も負けませんでした。

こうして高校は進学校に入りました。そこの弱小サッカー部に入りました。毎回1回戦ボーイの進学校のサッカー部です。だから、私は1年ですぐにレギュラーになりました。センタートップでした。

ところが、夏合宿の時、若い新任監督の繰り出す練習が厳しすぎて、2、3年生がすっぱり全員辞めてしまったのです。なにぶん我が校は、県下1、2の進学校です。総合選抜の時代の時です。共通一次のない時代の話です。我々の2年後から共通一次が始まったのです。同級生もかなりの選手が勉強を優先して止めていきました。

結局、能天気なサッカー好きの我々1年生11人だけが残されました。当然、私がキャプテンになりました。11人で練習です。しかし実際の練習では数人しか集まらない。試合も11人。試合5分前にやっと集まるというようなレベルでした。しかし、11人のそのまま新人戦になってしまったのです。新人戦は通常2年生のものです。しかし、我々1年生で出る他なかったのです。

初戦がいきなり優勝候補の葦崎高校でした。しかも2年後に葦崎で初のサッカーの高校総体が決まっていて、サッカー強化中の葦崎高校でした。相手の監督は横森監督でした。彼は新人で赴任したばかりの頃でした。いまでは彼は山梨学院大付属高の総監督に君臨している人です。

意外にもその競合葦崎相手に、たった11人の県の公立進学校の我々は非常に善戦したのです。結局、予想外の驚きの0-1で敗戦でした。試合は本当に一進一退だったのです。何度か我々が得点できそうになったのです。しかし最後には体力差が出てきて、練習不足の我々が突き放された。試合途中から、横森監督は立ち上がって絶叫で怒鳴り散らす。こっちは、私のバリトンの声がグラウンド全体

をこだますような指揮をとる。そういう大熱戦だったのです。

この一見たわいな試合が大事だったのです。我々すらその価値をその時は知りませんでした。やっぱり歯が立たないなと思っただけでした。実はこれが翌年度に影響したのです。

翌年度に1年生が25人ほど大量に入ってきたのです。一気に我々は35人ほどの大所帯に変わったのです。我々は進学校なのに優勝候補のサッカーの葦崎といい勝負をするサッカー進学校ということになっていたのです。これで非常にいいチームが出来ました。

そこへ新任の平林監督がきたわけです。我々はよく指導してもらえました。最初に体力測定から入りました。選手の個性や適正を見るというかなり現代的な進んだものです。サッカーの科学的練習法です。いまなら当たり前。しかし当時は最先端でした。

監督が甲府クラブで忙しい時は、私が練習メニューをもらってそれにしたがって練習していました。監督が審判業務で忙しくなると、私が授業中に教科書にサッカー本を隠しながらサッカー部の練習メニューを立てていました。だから、高2のときには成績がドンドン下がってしまいました。学年で下の方に入っていました。数学で初の赤点もとりました。たしか三角関数の始まったあたりでしょうか？ とにかく勉強する時間がなく、帰れば寝るだけでした。しかしサッカー部はドンドン強くなりました。

そして1年後の新人戦になったのです。ここで創立10年ぶり我が校は県ベスト4になりました。我が校は当時創立11年目でした。ベスト8で葦崎と対戦しました。今度は延長1-0で勝ったのです。これは県内に衝撃を与えたのです。当時葦崎が県内で負けたのでは7年ぶりとか14年ぶりとか、色々騒がれたのです。これもまた翌年の新入生を多く呼び込みました。なにぶん、山梨甲府の人は、文

武両道の人が大好きだからなのです。

一方、敗戦したほうの葦崎にも衝撃でした。翌年に葦崎高校は、葦崎で開催予定のサッカーの高校総体に出場するのです。それに合わせて1年生から強化しているチームが、無名の進学校のサッカー部に負けてしまったのです。ここから、彼らはさらなる強化策に打って出たのです。選手たちが寮生活に入るようになったのです。

次の準決勝の試合は、土曜の午後の試合でした。昔は土曜日にも授業がありました。その放課後、我が高の男子生徒たちが試合会場の高校へどどっと押し寄せたのです。当時は一般生徒が、サッカーコートの実横に集団で取り巻いて、立っての応援です。観客の一般高校生が、実横や実後ろから大声で叫ぶわけです。GK やディフェンダーはビビります。プレーへの集中が切れます。

結局、我がチームは大方の予想外の敗戦でした。下馬評でも私も我々が圧勝すると見ていました。しかし、我々は試合の6割を支配したのですが、相手のたったの3回のカウンターで3点とられて0-3で敗戦しました。GK が周りにたむろす同校生徒たちに囃し立てられて、平常心でプレーできなくなっていたのです。こうして私のサッカー人生は終わったのです。

私はその試合後第二試合の会場の横でユニフォームのまま、30分ほどただひたすら号泣していました。どうやっても立つ力が入らず、涙が止めようにも止まらなかったのです。だから、最近キャンデイズが解散宣言した後に泣き崩れた場面を YouTube で見た時はよく理解できました。力が抜けるのです。そして無性に涙が流れ落ちるのです。

この年の高3の夏のインターハイは、葦崎で行われることになっていました。それで、高3になる春休みに葦崎から招待されまし

た。これは例の葦崎の強化策の一貫でした。その時、我々は静岡の浜名高校と練習試合を行いました。これは小雨の降る中、葦崎高校の非常に滑りやすい赤土の上での試合でした。いまのような芝生の時代ではありません。小石やぺんぺん草のある土の公立校グラウンドの上で、我々は試合する他なかったのです。芝生のグラウンドは県で1つしかありませんでした。当時は県立陸上競技場だけでした。

試合開始5分でいきなり私がドリブルで突破し、私が利き足ではない左足でシュート。しかし、それはゴールの左サイドネットに突き刺さり、ゴールならずでした。前半の最初の15分は我々がワンサイドで圧倒していました。しかし徐々に挽回されました。何度かのカウンターで失点しました。結果は0-3でした。

その試合の後、浜名高の監督からこちらの監督へ私を転校受け入れの誘いがあったのです。当時私はこの浜名高校がその頃のインターハイの2連覇の覇者だったことを知りませんでした。実はこの時、彼ら浜名高校は3連覇を狙っていたのです。このことは、10数年前にネットではじめて知ったことです。

その後、我々は静岡からも練習マッチの大会に参加要請が来ました。そこで、全国から来たいくつかの高校と計4試合ほどして帰ったのです。我々新3年生はすでに引退していました。しかし、せっかくのめったにないオファーだから、みな参加費用をどうにか工面して記念にと参加したのです。

3年度になりました。予想通り、新入生がまた20人台入りしました。ついに総勢50人ほどの大所帯になったのです。我チームはたった11人出発、常時練習は数人しか集まらない。そんなチームから出発したのです。それが、いまや50人以上のサッカー部らしいサッカー部になったのです。いろいろな練習ができるようにな

りました。ここから数年我チームは県ベスト4の常連に変わるのです。

そしていよいよ夏のインターハイが来ました。我々新3年生の3人だけこれにぜひ出てくれと監督に要請されました。縦の中核の3人だけ残りました。トップの志村選手、センターハーフの私、右センターバックの塩野選手。こうして、我々3人の3年と他全員1、2年のチームで参加したのです。

このチームは結構強かった。激戦を制し、順調に勝ち上がりました。本戦が葦崎で行われたために葦崎は無条件で本戦出場が決まっていた。それで2位以上であれば、全国大会へ出場でした。

ところが、組み合わせ上、我々は準決勝で再び葦崎と対戦になってしまいました。今度は、0-1で敗戦したのです。おそらく我がチームにもっと3年生がいたらもっと強かったでしょう。しかし、1、2年生がメインのチームで相手は全員3年です。その差が出たのです。非常にいい試合だったが、最後の最後に粘り負けの敗戦でした。

結局我々4位入賞ということで、全国大会に出場はできませんでした。全国大会には別ブロックの石和高校が出ました。そのエースは中学のあの夏の合宿で仲の良くなった青柳選手でした。おそらく、逆の立場だったら、我々が葦崎の全国大会へ出場したでしょう。

その夏の本戦で葦崎は地元開催の大会の主役になりました。その時のエースが主将の塚田選手とトップの山寺選手でした。横森監督率いる彼ら葦崎はついに山梨県初の全国制覇を成し遂げました。結局、あの3連覇を狙った浜名高校を阻止したのがこの葦崎高校でした。

この大会の県予選の好印象が元で、私に早稲田大学のサッカー推

薦が来たようなのです。一方、塚田選手はこの大会でU 18日本代表のメンバー候補25人に選出されました。しかし、最終選考の19人には落選しました。彼はすこし小柄だったのです。ずっと後に、彼はJリーグが誕生した時のガンバ大阪の初代監督を引き受けました。一方、甲府クラブは後にJ2のヴァンフォーレ甲府になりました。彼はヴァンフォーレ甲府の2代目の監督になりました。

この夏のインターハイが終わると、私は大学受験に切り替えました。夏休みをフルに使い、日に14時間の猛勉強を行ったのです。しかし夏休み後の成績は思ったように伸びませんでした。今から思えば、1日に学ぶ量が多すぎて処理しきれなかったのです。単に問題のノルマの数だけをこなしていたに過ぎなかったのです。一種の自慰行為でした。

それから1ヶ月ほどスランプに陥りました。やる気が失せたのです。それから抜け出せたのは、試しに1日1問の深夜のラジオの旺文社の大学受験ラジオ講座です。1日1問でいいから、きちんと理解して次へ行くというスタイルでした。これが功を奏しました。私には塾のスタイルより、こっちの方が性に合っていたようです。

受験直前の最後の基準テストでは、数学で初めて我が高校の秀才君たちの誰も解けない問題を私だけが偶然解けたのです。その問題は初めて見たのですが、試験中にあるアイデアが閃いたのです。それにしたがってとくと、初めてみたその問題がきれいに簡単に解けたのです。私は当時はサッカーしかできませんでした。だから、この最後の最後の数学の成績は非常に自信になりました。

当時の我が校には同級生に雪江明彦君がいました。私の母は彼の母の洋品店でよく買い物をしていたのです。それで、母同士は知り合いでした。だから、私は母から、雪江洋品店の息子は優秀らしい

ぞという話は結構子供の頃から聞き知っていたのです。私は、その時のテストの点数が初めて数学の天才雪江明彦君と同じだったのです。

彼は高校1年から高木貞治の分厚い解析概論を読んでいたのです。一度彼に私はその本は何だと聞いたことがあったのです。彼が数学者になることは高校時代から知っていました。だから、サッカーしか知らない私でしたが、どういうわけか解析概論という物があることは知っていました。また、「東大への数学」という参考書があることも彼の持ち歩くものから知ってはいたのです。

彼はのちに難なく東大数学へ進学します。そこで広中平祐博士が数学フィールズ賞をとった後で彼から目をつけられます。彼は、広中平祐氏のフィールズ賞を記念してできた米留学プログラムに乗って、アメリカのハーバード大学へ留学に行くことになったのです。いまでは、日本を代表する数学者の1人になっています。いまは京都大学の看板教授です。

我々の学年には、他に石川修六君がいました。彼はバスケット部でした。彼はたしか現役で京都大学理学部へ合格しました。後に彼は大阪市立大物理の教授になりました。

こういう長いサッカー生活のもろもろの事情がありました。私の高校時代の知り合い関係者が甲府クラブの監督やコーチだったわけです。彼らからいつでも甲府クラブへ入れてやるから入れと言われていたのです。これは実は阪大院生時代まで続いていたのです。だから、私は大学2年の時には、まだまだサッカーへ戻ろうと思えば戻れるチャンスがあったのです。私は本当に悩みに悩んだのです。

そして、私は朝永先生に質問できるチャンスを待っていたのです。そのセミナーでついに朝永先生の講演前に先生と二人になる

チャンスがありました。そこで、私は

「先生、ちょっと質問があります。よろしいでしょうか？」

と聞いたのです。すると、朝永先生は

「いまは講演前だから、悪いけど質問は講演後にまた来てくれませんか」

とお答えになったのです。しかたなく、私は先生の言葉に従い講演後を待ちました。

しかしその時は朝永先生は他の学生たちにもみくちやになったのです。だから、私は出遅れました。それで、私はもう朝永先生に近づくことが出来ませんでした。先生の周りに大集団が取り巻く中、すぐにおつきの人が自動車につれていきました。そして、先生はあっという間に車ですぐにお帰りになりました。こうして、永遠にこの質問を先生に聞くことができなくなったのです。なぜなら、先生はこの翌年ご逝去してしまったからです。

それで、私は自分でそれを調べようと思いました。そのセミナーの後に、私は古今東西の小説や学者の自伝や伝記を本を買ったり、図書館で借りたりしながら読み明かしました。結局、レフ・ダビドビッチ・ランダウと長岡半太郎先生だけが、その答えを用意していました。答えは、

「サッカー選手がいまから理論物理学者に転向しても大丈夫だ」  
「まだ間に合う」

というものだったのです。

それで、私はその2年の秋から正式にサッカー部を退部しました。そしてディラックの量子力学の英語の本を買いました。量子力学は英語で勉強しようと考えたのです。

私は10月生まれでした。ちょうどその頃私は成人を迎えたので

す。山梨の成人式には帰りませんでした。その代わりにその時の写真を千葉の地元の写真館で撮りました。それから、私は口ひげを伸ばすようになったのです。私の口ひげは、物理学者への決意の表れだったのです。

そして、翌年の長い春休みを使って、理論物理へ行くのだからまずは数学をものにしようと計画したのです。それで、私はロシアのスミルノフ数学教程全12巻を買いました。春休みの2ヶ月の間に、それを全部学ぶつもりでした。そして、実際に1日に5時間睡眠で頑張って勉強したのです。春先に勉強しているとすぐに眠くなります。それで、立って勉強できるように、下宿に塾で使うような大きなホワイトボードを買いました。私は計算をその上でしたのです。だから、4畳半の下宿の半分がホワイトボードで仕切りになるという部屋でした。

結局、スミルノフの第6巻のほぼ途中までしかいけませんでした。その辺で、新年度の3年が始まったのです。この計画はここまですべてで終わりでした。私が近眼になったのはこれが原因でした。実際、受験勉強のときより勉強したのです。

しかし、そのおかげか、その頃には同じ学年で一番数学ができる方に変っていたのです。1, 2年は優が8個程度だったものが、優が一気に倍以上になりました。3年次終了にはもう4年卒業の単位数を超えていました。こうして、本格的に4年次は大学院入試だけに集中できるようになったのです。

そして、大学院は、受験に日程上、阪大基礎工数理系、京都大学理物、東北大学理物の順で3つだけ受ける予定でした。最初が阪大基礎工数理系でした。そこは、合格者定員たった8人だけの超難関だったのです。40数人中8人。まず落ちるだろうと思っていまし

た。その阪大基礎工がいきなり受かってしまったのです。

実は試験前日の晩、私はホテルでなぜかわからない理由で39度の高熱を出したのです。いま思えば、インフルエンザにかかったのでしょう。それで、家に電話して父親に保険証を持ってきて欲しいと言って来てもらったのです。父はわざわざ山梨から夜中に自動車で豊中まで来てくれたのです。そして必要なものを私に渡してすぐに引き返しました。そしてその夜、私は急患としてタクシーで豊中市民病院へ連れて行ってもらいました。そこで白いナースキャップの看護婦から点滴を受けました。そして薬をもらって支払いをすませてホテルへ帰ったのです。後は寝坊しないように起きるだけです。

翌朝には熱は下がりましたが、まだ頭は平常ではありませんでした。とにかく試験前は何もせず、何も考えず、「僕は囑望されたサッカーを止めて物理学者になろうとするんだ。そんな僕がこの世界で何かする役目があるとすれば、きっと合格できるに違いない」とだけ信じて受けたのです。そうすると、試験が始まって意外にも非常に落ち着きました。頭が爽快になりクリアになったのです。そして、1次試験が合格になったのです。2次試験の面接があり、私は数理系で受けたのですが、問題は選択できたので、物性系の問題で受けたのです。

それで、数理系のボスの高木修二教授から物性系の教授がOKを言えば良いということで、今度は物性系の中村伝教授と面接をしたのです。だから、私は二度面接を受けたのです。彼は「ここで何をやりたいのか？」と私に聞きました。私は卒論が「ブラウン運動の理論」だったのです。だから、私は「ブラウン運動の量子力学版があるはずだと思うので、それをしたくて阪大の数理を受けました」

と答えました。彼は「そんなのは面白くないよ。でも、まあ良いでしょう」と笑いながら採用してくれることになりました。これで私の阪大基礎工合格が決まったのです。

翌日私はお世話になった豊中市民病院へ行きました。行く途中、花屋でバラの花を一束買いました。看護婦さんへの合格のお礼としてその花束を贈ろうと思ったのです。病院でその担当の看護婦さん呼び出してもらったのです。そして、私はその看護婦さんに「おかげでなんとか阪大大学院に合格できました。ありがとうございました」と言いました。そう言って、バラの花束を渡しました。すると、彼女は「やあ、感激やわー。こんなことあるんやねー」と大阪弁で喜んだのです。私はお辞儀して、すぐに千葉の下宿へ戻りました。

次は京都大学の理学部の物理でした。たしか、当時京都の物理は二つに分かれていました。物性と素粒子です。私は物性の方を受けました。物性は大所帯でした。だから、比較的合格者定員の人数が多かったのです。しかしながら、その京都大学で失敗しました。ある式の符号を間違えたのです。それですべて系統的に間違いました。また実験の問題が多く、理論の私は実験したことのないものでした。特に、ファブリペロの光学実験は、我々の理科大には物理実験に入っていませんでした。これで失敗しました。時間中にはそれに答えることができなかつたのです。

京大に行った高校の同級生たちが応援に来ていました。彼ら高校の同級生にだめだったという、その晩は晩飯を食べに寿司屋へ行き、残念会をしてくれました。鴨川の河原を深夜に3人で高校の校歌を歌いながら彼の下宿へ向かいました。その夜は彼の下宿の世話になりました。東北大学はもう受けませんでした。

こうして、晴れて大阪大学基礎工学部へ入学することになりました。これから私が本格的に理論物理学者への道を歩むことになったというわけなのです。

そのときには、すでにキャンディーズは解散していました。だから、私にとってキャンディーズとの接点がもしあったとすれば、あの1977年の7月17日しかなかったのです。あの頃ならキャンディーズのコンサートへ行っても何も問題なかったのです。

事実、いまなら、朝永振一郎博士にその質問をする必要がなかったことを知っているのです。なぜなら、なぜランダウと長岡半太郎が、大丈夫と考えたかの理由を知っているからなのです。

彼らの時代のヒーローはデンマーク人のニールス・ボーアでした。原子の太陽系モデルで前期量子論を確立した物理学者です。量子力学発見の立役者です。彼の弟はハラルド・ボーアといいます。2歳年下です。

彼らはともに若い頃サッカーをしていました。デンマークはサッカーの強豪国です。弟はデンマークのユースの代表のGKになれるほどでした。しかし両者ともにサッカーで怪我をしました。そして兄は理論物理学者、弟は数学者になったのです。

後に兄は物理学で革命を起こしました。弟は数学で革命を起こしました。ハラルド・ボーアがアメリカの早熟の天才ノーバート・ウィナーと協力して、現代確率論の誕生を促したのです。

ロシアの天才ランダウの先生はニールス・ボーアでした。日本の長岡半太郎は原子の土星モデルを考えました。彼のライバルもニールス・ボーアでした。だから、彼らはニールス・ボーアやその弟が数学者で元サッカー選手だったことを知っていたはずなのです。

つまり、事実として、「少年サッカー選手が後に世界最高の数学

者や理論物理学者になった」例が存在したのです。

だから、私がああのコンサートへ行っただとしても何も問題はなかったのです。朝永振一郎先生にその質問を聞く必要は本来なかったのです。

そんなわけで、もしあの時、私がああの突然の解散宣言のコンサートへ行っていたら、どうなったのでしょうか？ 私の状況は大きく変わっていたのかもしれませんが。ミキさんを見て、きっと感動したことでしょう。ひょっとしたら、私は物理ではなく、サッカーへ戻ったかもしれません。

それからだいぶ時間が立ちました。私は住友セメント、ユタ大留学、富士通、理研と勤務しました。私が理研にいた1993年から1996年の間に神戸阪神淡路の大地震がありました。1995年1月17日です。私がよく知っている町並みが倒壊しました。三宮が倒壊しました。

そして、1996年春からここ阿南に来ていました。子育ての真っ最中です。私には2人の年子の男の子がありました。その2人の育児や面倒で大忙しの日々でした。引っ越しから15年後の2011年には、息子たちは立派な少年に成長しました。大学へそれぞれ進学し、私は比較的時間ができたのです。それで、ネットでブログを書いていましたが、それに集中できるようになったのです。

私は、阪神の大地震を調べ始め、地震予知の問題を研究し始めたのです。地震予知は可能かどうかいろいろこの時期に調べ始めたのです。むろん、その前から、さまざまの未知の現象を個人的に調べていました。

そんな矢先のことでした。2011年3月11日に我が国は東日本大震災に陥りました。それで、私はこの地震のことを私のブログ

に毎日書き込んでいたのです。みなさんのご承知のとおりです。その東日本大震災後の4月22日にキャンディーズのスーさんが亡くなりました。

一方、私はその震災の国内の預言者の3人の1人として少し有名になったのです。私のブログの地震予知および東日本大震災にまつわる陰謀の解明などの活動で少し知られるようになりました。東日本大震災は、自然災害ではなく、人工的な核爆弾による連発地震だったのです。それを科学的に当時得られるさまざまな地震データを分析して、割り出したのです。それでヒカルランドからニコラ・テスラ関係の本を出すことになりました。それが基で、次にニコラ・テスラの1892年のイギリスの電気工学会議における講演の記録の本を翻訳しました。

こうして、私はスーさんを通じて2011年でキャンディーズとの接点が出来たわけです。そして、去年の暮れに偶然、そのYouTubeでスーさんこと田中好子さんの葬式にミキさんとランさんが出ていた弔事の場面を見たのです。それから、キャンディーズの昔の映像が私のYouTubeのおすすめに出るようになったというわけです。

それがきっかけで、私は去年暮れからこうしてキャンディーズを好きになりました。それが私の力になってくれたのです。長くなりましたが、これが本当のところだったのです。

そもそもこのキャンディーズに接することがなければ、ここまで昔のことを思い出すことは出来ませんでした。2020年以前はこの時代のことは、私にとって遠い過ぎ去った時代の記憶にすぎませんでした。完全に記憶の彼方に飛んでしまっていたのです。

実際、数年前に私は山梨の中学の同窓会や高校サッカー部員との

会合に出ました。その時は昔のことは本人を目の前にしても全く思い出せなかったのです。しかし、いまならこうしてなめらかに思い出せるのです。本当に不思議です。

いずれにせよ、そのキャンディーズの昔の歌声を YouTube に残してくれた当時の若いファンだった方々にも心より感謝したいと思います。どうもありがとうございます。あなた方の編集された優れた YouTube の動画や歌がなければ、どうなったでしょうか？ 私は一過性の脳梗塞の時は本当に乗り越えることは難しかったかもしれませぬ。うつ病になったかもしれませぬ。本当に気が紛れました。気が晴れました。本当にありがとう。

1977年4月4日の後楽園球場の5万5千人のファイナルカーニバルがありました。その最後にランさんとミキさんとスーさんは次のように言いました。ランさんは、こう言いました。

「キャンディーズはすばらしいです。キャンディーズは最高です。私たち3人はすべてをかけてきました。ファンのみなさんがわたしたちをここまで作り上げてくれたんです。いま最高のまま解散したいと思います。」

ミキさんは、こう言いました。

「子供の頃から始めたキャンディーズです。その頃の決心をずっと貫きに通すと決めて、努力を重ねてきました。それがすべてできました。純粹なまま、いまこの瞬間に終わります」

そして、スーさんは、こう言いました。

「最後に、わたしたち3人の長年の夢を実現できて本当にうれしく思います。みなさん、本当に長い間ありがとうございました。」

私もここまで書いてまったく同じ気持ちです。

多くの私のファンおよび知人の後押しがあって、なんとかここまでやり遂げることができました。本当にありがとうございました。みなさんには心より感謝いたします。

今回のこの本は、私の遺作になると思って書いたのです。これが私の最後の楽しみだと思って書きました。

しかし、所詮は頭のおかしな外野のフリーの理論物理学者の妄想の類にすぎません。最後には結局、信じるか信じないかはあなた次第なのです。

最後の最後にディスクレーマー (免責事項) を置いておきます。

編者 井口和基 Ph.D.

令和3年(2021年)6月15日(火) 阿南の自宅にて

**【ディスクレーム (免責事項)】**

- ・頭のイカれたクズ物理学者の戯言ですから、真剣に受け止めないでください。
- ・あくまで、自分個人のためのエッセイです。
- ・商品ではありません。無断コピーして人に配布および販売できません。
- ・写真や図は私が作成したものを除き、すべてネット上でサイトおよび YouTube などで公開されているものです。
- ・中に登場する個人および団体および組織のみなさんは、私に文句言わないでください。
- ・中身を信じる信じないは、あなたのマスク次第、じゃなかった、おむつ次第、じゃなかった、おつむ次第というやつです。
- ・この情報を基に君自身や君の家族が死んだり、何らかの不利益や損害が起こったとしても、当局は一切関知しないからそのつもりでお願いします。

# ニコラ・テスラの遺産

— 陰謀論から技術革新・精神革命へ —

著者 井口和基, Ph. D.

©Kazumoto Iguchi

KazumotoIguchi Research Laboratory

〒774-0003 徳島県阿南市畷町新はり 70-3

令和3年 2021年 6月 15日 初版発行

## 『井口和基・著作集』

- (発行元：太陽書房) 1. 「三セクター分立の概念」(2001)/ISBN-978-4901351263.
2. 「何が科学をつぶすのか？」(2002)/ISBN-978-4901351379.
3. 「物理お宅博士のスポーツ観戦記—ソルトレイク・オリンピック編—」(2002)/ISBN-978-4901351447.
4. 「物理お宅博士のスポーツ観戦記—日韓ワールドカップ編—」(2002) /ISBN-978-4901351478.
5. 「フラァとカウフマンの世界」(2004)/ISBN 978-4901351591.
6. 「柘植の『反秀才論』を読み解く (上)」(2004)/ISBN 978-4901351690.
7. 「柘植の『反秀才論』を読み解く (下)」(2004)/ISBN 978-4901351706.
8. 「マックスウェルの電磁気学」(2012)/ISBN 978-486420-065-3.
9. 「オンサーガーの不可逆過程の熱力学」(2014)/ISBN 978-486420-124-7.
10. 「ブラウン運動の動力学理論」(2016)/ISBN 978-4-86420-169-8.
11. 「新版 過渡的現象の熱力学」(2016)/ISBN 978-4-86420-182-7.
12. 「新版 熱力学新講 – 杉田の熱力学 –」(2017)/ISBN 978-4-86420-198-8.
13. 「解析熱力学 – 熱力学基礎論に関する連続講義 –」(2019)/ISBN 978-4-86420-238-1.

(発行元：ヒカルランド) 1. 井口和基著「ニコラ・テスラが本当に伝えたかった宇宙の超しくみ 上 忘れられたフリーエネルギーのシ

- 
- ンプルな原理」(ヒカルランド, 2013)/ISBN-13 : 978-4864711609.
2. 井口和基著「ニコラ・テスラが本当に伝えたかった宇宙の超しくみ 下 地震予測と UFO 飛行原理のファイナルアンサー」(ヒカルランド, 2013)/ISBN-13 : 978-4864711678.
3. 保江邦夫著・井口和基著「物理で語り尽くす UFO・あの世・神様の世界 アインシュタイン、マックスウェル、ディラック、シュレーディンガーさえも超えて」(ヒカルランド, 2013)/ISBN-13 : 978-4864711678.
4. ニコラ・テスラ著/井口和基訳「未来テクノロジーの設計図 ニコラ・テスラの [完全技術] 解説書 高電圧高周波交流電源と無線電力輸送のすべて」(ヒカルランド, 2013)/ISBN-13 : 978-4864713108.